



県内主要産業の動向

2018年1・2月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年12月	18年1月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は、昨年を上回ったが厳しい水準。職人不足で工程が進まず、仕掛品が積み上がっている。ふるさと納税の返礼品関連は、年末のまとまった受注をこなすため繁忙。そうした中、産地の技術力をPRするため、欧州の展示会に出展する動きがみられている。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は用途により明暗。低価格品を中心に家庭用が低迷するも、業務用は引き続き堅調。製品別では、トンガが当面の受注を確保している。ノベルティ需要は、景況感が回復した大手企業の注文に牽引され、前年を上回る水準。そうした中、悪天候により生産が滞る企業がみられた。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、春先の需要期を前に一服感。記録的な大雪が製品出荷にも影響。そうした中、建築関連工具は堅調を維持。各種製造工場でのトルクレンチ需要も続いている。輸出は、東南アジア各国の旧正月の影響もあり大幅に減少。鋼材価格、運賃値上がりが依然採算面の懸念材料に。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は好調に推移。半導体関連では、半導体素材の受注が堅調。電子部品関連では、半導体製造装置向けは好調であるが、携帯端末向けで需要にやや一服感がみられる。足下の受注は好調だが、需給の逼迫を受けた前倒し発注もあるため、先行きについては慎重にみる向きもある。
鋳物	○	○	→	受注は順調に推移。総じてIT関連・自動車・建築関連などを中心に好調で当面の受注には事欠かない。産業用機械にも動きが出てきた。足下では、主原料の銑鉄、副資材の樹脂や添加剤などの価格上昇が続き、人出不足も相俟って生産コストの抑制が大きな課題に。
金型	○	○	→	受注は引き続き堅調。国内外向けの自動車関連や首都圏向けのビル建材が依然、好調に推移している。一方、季節商品である暖房機器の生産は、ほぼ終了。県央地区では、好調な受注を背景に、内製化目的の設備投資により、短納期とコストダウンを目指す企業もみられる。
一般機械	○	○	↗	内需・外需とも自動車、建設機械、IT関連など幅広い分野で活況。医薬品・食品製造機械にも動きが出てきた。当面は、旺盛な中国の設備投資需要を背景に好調を維持するものとみられるが、部品不足による納期遅延や為替の動向など、先行きを懸念する声も聞かれた。



業 種	景 況			コ メ ント
	17年12月	18年1月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地は、冬期でイベント数も少なく、受注量は前年を若干下回る水準。白生地等の原材料価格は引き続き上昇しており、収益を圧迫している。五泉産地は、法衣関連の需要が盛り上がりず厳しい業況。一部で、ニット産業と連携し、五泉地域全体を盛り上げようとする動きがみられる。
合織織物	●	●	→	春物生産は終盤。受注は例年並みを確保したが、納期が短く小ロットで対応に苦慮している。昨今の原油高の煽りを受け、原材料のポリエステル糸が値上がりし、利幅は縮小傾向。そうした中、産地の一部では秋物受注が始まり、滑り出し順調との声も聞かれた。
ニ ッ ト	●	●	→	春物生産期。寒波の影響で冬物の店頭販売が好調なことを受けて、アパレルからの春物受注が例年よりも増加。しかしながら、短納期の要請が多く生産はタイトになりがち。そうした中、五泉産地では2月10日（ニットの日）を中心に「ニットフェス」を開催し、工場見学や販売会は多くの来場者で賑わった。
木 工 家 具	●	●	→	業務用は、飲食店を中心とした店舗関連に動きがあり、繁忙感が出てきた。商業施設の家具リフォムの大量受注など、春先の商戦向け受注が続く見込み。家庭用は、受注確保に依然苦慮。組合は製品PRのため恒例の大型催事に参加。地元商工団体も推奨品事業を企画し販売促進を後押し。
清 酒	●	●	→	1月の出荷量は、県外向けが伸び悩んだことにより、全体では前年を下回った。消費者の節約志向が続いていることや、寒波による影響もみられた。酒類別では、本醸造酒が不振。出荷が伸び悩む中、「いがた酒の陣」などのイベントを通じた需要喚起に期待する声が多い。
米 菓	◐	◐	→	1月の売上は前年並みを確保。需要期入りしており、定番品などが堅調だった。2月も引き続き堅調推移。そうした中、各社とも季節限定商品などの発売により需要を喚起。コスト面では原料米や物流費などの価格高騰を受け、一部で商品の実質値上げを検討・実行する動きもみられる。
建 設	◐	◐	→	公共工事は、県や市町村の発注減により低下基調。県の農地部で前年の反動減がみられる。民間工事は、大型工事が少なく盛り上がり欠ける状況。住宅建設は、相続対策の一巡により貸家の着工が落ち込んでいるほか、持家も弱含みで推移している。
大型小売店	◐	◐	→	1月の売上は前年を下回った。前半は初売りなどが好調だったものの、後半は大雪で客足が伸び悩んだ。足下では、気温低下が続き春物衣料の動きが鈍い。一方、食品は堅調推移。そうした中、百貨店は催事開催により需要喚起。スーパーでは野菜価格高騰が続くことを懸念する声も。